

令和4年度（第24回）佐賀市重要産業遺跡調査委員会 議事録

開催日	令和5年2月6日（月）	
開催時間	13時00分～15時00分	
開催場所	佐賀市役所大財別館 4-3会議室	
出席者	委員	渡辺会長、田端副会長、安達委員（リモート出席）、正垣委員、前田委員、本多委員
	事務局	宮崎部長、木島副部長兼文化財課長、角副課長、松本係長、古賀、三代、馬場、大平、井上
議 事	<p>【報告事項】</p> <p>(1) 前回（第23回）委員会での主な意見と対応方針について</p> <p>【協議事項】</p> <p>(1) 精煉方跡の調査について</p> <p>①令和4年度の発掘調査について</p> <p>②令和5年度の発掘調査について</p>	
欠席委員	笹田委員	
傍聴者	なし	
報道関係者	1社	

【会議の公開、非公開について】

◇会長

「佐賀市審議会等の会議の公開に関する規程」第四条の規定により、この会議の公開の可否をはかりたい。公開でよろしいか。

◇委員

はい

◇会長

それでは本日の会議を公開とし、これより議事に入る。

【報告事項】

(1) 前回（第23回）委員会での主な意見と対応方針について

※事務局より説明（以下、質疑応答）。

◇委員

「役宅」という言葉が適当ではないとのことだが、どのような名称になるのか。

◆事務局

これまで、田中の家なども「役宅」と言ってきたが、佐野常民の役宅などとは性格が違うのではないかと、前回、指摘をいただいた。「精煉方略図」には「田中氏居宅」「石黒氏居宅」と書いて

あるが、本当に役宅だったかを説明できる史料が今のところはない。田中近江の家に（藩主となる以前の）鍋島直大が立ち寄っていることもあるので、式台や御成の間のようなものがあつた可能性がないとは言えない。今後は安易に「役宅」と言わないように、内部で検討したい。

◇委員

わかりました。

【協議事項】

（１）精煉方跡の調査について

①令和４年度の発掘調査について

※事務局より説明（以下、質疑応答）。

◇委員

（資料２－１）１頁目にある平成３０年度の（調査で）スラッグや木炭が出ている土坑は、精煉方期の可能性もあるという認識か。

◆事務局

あくまでも可能性だが、そう考えている。

◇委員

平成３０年度の遺構のベースも褐色の砂質土に掘り込んであつたと思うが、それは今回の第２層と同じようなものという認識でよいか。

◆事務局

平成３０年度に精煉方と推定した地盤は、砂質土というよりは粘土質が高かつた。

◇委員

「製鉄関連」と書いているが、スラッグや木炭が出ている土坑のベースは、今回の第２層とは違うのか。

◆事務局

今回の第２層は近世の地層だと考えているが、土質は同一ではないようだ。

◇委員

文献調査についてだが、「精煉方略図」に「紙漉場」とあるが、これは名尾和紙のようなものではなく、恐らくはハترون紙。ペーパーカートリッジとって、火薬と弾丸をひとまとめにするもの。精煉方では弾薬作りをしていたので、そう考えられる。

◆事務局

ありがとうございました。紙漉場では（当然、和紙を）漉くものだと思っていた。

◇委員

（ハترون紙は）ひと昔前に事務用品で使っていた茶色い薄い封筒の少し分厚いもの。洋式銃では、火薬と弾丸を一緒に包んで使っていた。一種の油紙で、湿気が火薬に及ばない。そのような場所が、江戸時代の言葉で「紙漉場」という表現になっている。今後の発掘・文献の調査では注意したほうがよい。

◆事務局

ありがとうございます。

◇委員

２頁目の「建物基礎遺構」３２基の内訳を３種類に分けているが、基本的には根固めの有無と

礎石の有無で分けられると理解してよいか。また、3つのうち「根固めのみ」の8基には、本来は礎石があったと考えているのか。

◆事務局

そのとおり。「根固めのみ」とは、元は礎石があったが無くなっているという認識である。

◇委員

要するに、礎石は残ってない。そうすると、ここでの基礎遺構は根固めプラス礎石というパターンと、礎石のみというパターンの2種類あったのか。

◆事務局

はい。

◇委員

そのうち、根固めがあるものには、礎石が残っているものと残ってないものがあるということか。

◆事務局

はい。

◇委員

3つ羅列されているが、3種類が独立したものではないのか。

◆事務局

はい。内訳として分けている。礎石プラス根固めが出たものが1番多く、礎石だけが出ているのが2番目に多い。

◇委員

(※資料2-1の3～4頁目で) IからVIIまで分かれているが、Iは布掘りで、それぞれ礎石の下に根固めがあるのか。それとも全体(※II～VII)に帯状の根固めがあるのか。他に比べると、これ(※I)だけ特殊だ。

◆事務局

そのとおり。この中では、(Iは)特異な根固めという認識である。

◇委員

例えばIVは根固めが無いと理解してよいか。

◆事務局

そのとおり。石を置いただけである。

◇委員

(I・IVを除いた)II・III・V・VI・VIIには根固めがあるのか。

◆事務局

そのとおり。

◇委員

根固めはあるが固め方が違う。一緒に大きな石を入れるか、円礫を入れるか、あるいは硝子のようなものを入れるか。IVのAとB(の違い)は構造ではなく、層の違いか。

◆事務局

(根固めが無く)礎石だけのものには層的な違いがあり、石の下面が表土中に位置するものもあったので列記した。

◇委員

例えばⅡとⅢでは層位的な差異はないのか。

◆事務局

Ⅱ・Ⅲについては、第2層上面から掘り込んでいるという認識である。

◇委員

情報の整理の仕方に統一性・一貫性がない。例えば、根固めの有無で分けて、その中で礎石が残っているか、残っていないか、更に根固めの内容がどう違うかという分け方になる。また、上に載っている礎石の形態は構造的な分類で、それとは別に層位的な分類もある。だから、例えばⅣに突然、層位の分類が加わったりすると、ごちゃ混ぜになる。構造的な分類は構造的な分類で階層的に分けて、層位は層位でまた別に分けて整理しないとイケない。恐らく、次の（調査の）配列や建物復元とも関係してくるので、もう少しこの辺りの情報を整理した上で分類して、配列や時期差というものを考えたほうがよい。

◆事務局

わかりました。ありがとうございます。

◇委員

今年度の調査でキーとなるのは、第1層の白色粘土層ではなく、第2層の褐色砂質土層だと思う。確認だが、Ⅰの布掘り状の掘り込みと第2層との関係はどうだったのか。第2層を切り込んでいたのか、それとも第2層と一体的に布掘りの溝の中を積み上げて成形したような形だったのか。同じように、Ⅲでも根固めの玉砂利はベースを切り込んでいるような感じだ。ⅠとⅢについて、第2層との関係を教えていただきたい。

◆事務局

Ⅰ・Ⅲとも、第2層上面から掘り込んでいるという認識である。

◇委員

Ⅱは第2層中に位置するのか。

◆事務局

ほとんどは第2層から掘り込んでいる。「P18」など一部の礎石は、レベルから判断して、明らかに第2層中に礎石上面が位置する。平成21年度の調査で確認されたものだが、今回はあまり掘っていないが、下に第3層・第4層があるとすれば、そこを基盤にしているものがあると考えている。

◇委員

Ⅳも第2層の上面か。

◆事務局

Ⅳは第1層の上面である。

◇委員

Ⅴも上面か。

◆事務局

Ⅴは切り合いがあり、Ⅲを切るような形で検出している。

◇委員

ホワイトボードに礎石の位置と、対応関係を書いていただきたい。
（※板書をもとに作成した「模式図」参照。）

◆事務局

現段階では、第2層の上面から切り込んでいるのがⅠ・Ⅱ・Ⅲ。ただし、Ⅱには一部、第2層中に位置すると思われる礎石「P18」がある。

Ⅵは攪乱が入っていて第1層との切り合い関係が不明だが、Ⅴのように、明らかに第2層を掘り込んで切る礎石もある。この下に破砕石を入れて、礎石の根固めとしている。

一方、Ⅵは本来あったⅡの根固めの上に、ぼんと礎石が置かれたタイプ。Ⅶは少し攪乱があったが、この第2層に坩堝の破片を敷き詰めて、その上に（礎石を）載せたパターン。

◇委員

Ⅲはないのか。

◆事務局

Ⅲは第2層から掘り込むパターンである。

◇委員

確認すると、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは第2層上面から掘り込んでいる。Ⅳは第1層の上面。Ⅴは第1層上面から掘り込んでいる。

◆事務局

Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの遺構を壊すように掘り込んでいる。

◇委員

ⅥはⅡの上にⅢを利用した新しい礎石。Ⅶも第1層上面から掘り込んでいる。

◆事務局

Ⅶも第1層と第2層を破壊した上で、新たに根固めを構築している感じである。

◇委員

Ⅶの礎石を据えるために第1層・第2層上面から切り込んで、その下に坩堝を根固めに据えている。

◇委員

なるほど。更に第1層よりも新しい。

◆事務局

そのとおり。

◇委員

Ⅰ・Ⅱ・Ⅲが2層、礎石の根固めになっている。下に礎石がないのであれば、何か地下に入っているのか。

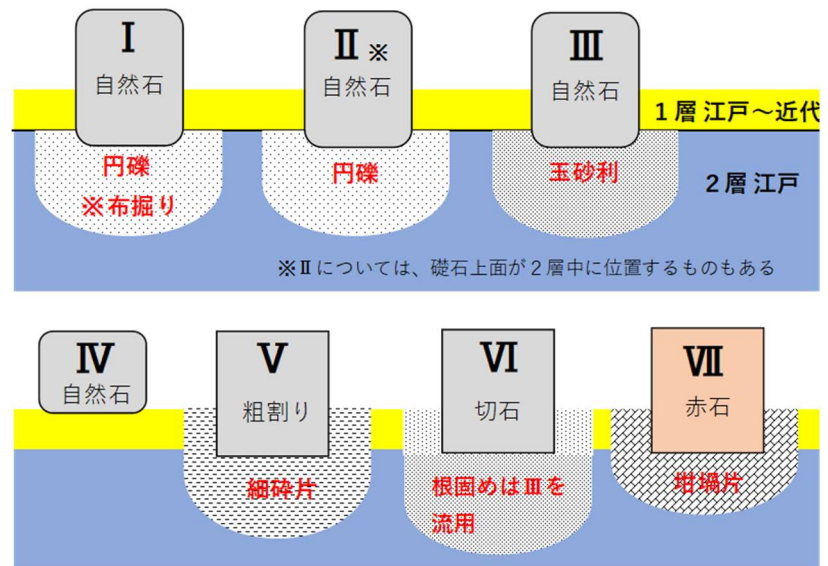
◆事務局

恐らく据えるときに、安山岩か玄武岩質の石を削った時に生じる扁平な石を根固めとして入れている。

◇委員

では、それとⅠ・Ⅱ・Ⅲの上の土に違いはあるか。

◆事務局



【模式図】

基盤は第2層の土の中にある。

◇委員

第2層の土は、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで土の違いがあるのか。

◆事務局

土は明らかに新しい。これには時期差がある。

◇委員

同じ状態の土か。

◆事務局

混ざっている。第2層は、ほぼきれいな砂質土だが、Ⅴの埋土は、混ぜたような土できれいではない。この第1層・第2層を破壊している。

◇委員

では、礎石があっても、その上の柱の礎石ではない可能性があるのか。

◆事務局

柱のための礎石だと考えるが、明らかに切り合いがあるので、時期差があると思う。

◇委員

切り合いがあったら第1層が混ざるのではないか。

◆事務局

この土はいろいろ混ざっている。

◇委員

混ざりというのは、第1層の白色粘土層が入っているのか。

◆事務局

白色粘土層っぽいものもあるが、どちらかというとなり灰色っぽい土で、いろいろなものが混じっている。

◇委員

同じ地面で、そこだけ元々、土が違うわけではないだろう。

◇委員

明らかに切り込んでいるのだろう。第1層を切り込んで新しい柱穴を掘って礎石を据えているから、ここでいうⅤは確実にⅦと同じように、第1層よりは新しいという見解になる。

◆事務局

そのとおり。

◇委員

掘ってまた礎石を入れたのか。

◆事務局

そのとおり。だから、土は第1層の粘土ではない。

◇委員

Ⅶも図で見たら一番深い。掘り込んだのは柱を低くするためか。

◆事務局

実際は、ここは結構高い。

◇委員

高いというのは、他の礎石と上面が合っているということか。

◆事務局

あまり変わらない。図が悪かったが、実際はもっと高い。結局、時間差があることが前提だが、作り方も違う。Ⅲの時期は、玉砂利をいっぱい入れたりする。

◇委員

作り方というのは礎石の基礎構造が違うということか。

◆事務局

そのとおり。作り方が違う。Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは栗石や玉砂利をたくさん使うパターン。これを切つて、後で作られている礎石は、栗石を入れずに破砕石を下に敷き込むなど、作り方の違いがある。

◇委員

同じ層で、栗石や玉砂利が入っているところと、入っていないで礎石だけというところはないのか。また、同じ時期の礎石にもかかわらず、こういう破砕石で処理しているところと、そうでないところなどはないか。

◆事務局

あまり極端な高低差はない。ほぼ揃った高さが変わらない状態だが、新旧関係がある。

◇委員

時間差の問題なのか、作った時期の問題なのか。下の地盤が違うから違いがあるのか。

◇委員

掘り込み面が違うから時期差があるということか。

◆事務局

基本層序が第1層・第2層という中で、切り込み層でいくと、少なくとも3つの時期がありそうなことがわかる。Ⅰ・Ⅱ・ⅢとⅣとⅤ・Ⅶがあるが、ⅤとⅦに時間差があるのか、同一なのか、今の状況ではよくわからない。

◇委員

Ⅴ・Ⅶの下の石は同じか。

◆事務局

Ⅶは塀破片を使っている。Ⅴは恐らくこの石を調整するときに出た破片を下に敷き込んでいる。

◆事務局

層序の切り込み関係や、構造的に複数の形があるが、それを全体的に整理して平面に戻したときに、どの柱がつながるかまでの分析はできていない。そこを詰める作業をしないと、本当にその時期差が大丈夫なのか、構造の分類が建物の違いとして認識できるかはわからない。現場を見てもわかると思うが、第1層があつたりなかったりしていることもあり、最初、キー層となる精煉合資会社の面だという説明をしていたので、より混乱させているが、東側の建物の状況を確認してから、もう一度、層序関係を押さえたい。

平成21年度に調査した部分は、第2層に潜り込んでいるものもあるので、もう少し細かく層序を分けられるかもしれない。そこを来年度の調査で確認する必要があるし、面で押さえられていないところもあるので、もう一回、どの柱が同一時期のものかについて押さえた上で、来年度、調査に入りたいと考えている。この辺りの精査をもう少しする必要がある。

◇委員

(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは) 礎石と根固めが一緒にあったものを示しているわけか。それ以外に、ここに書

いてあるように、「礎石のみ」だと動いているかどうかわからない。「根固めのみ」というのは、玉砂利のようなものか。

◆事務局

これ（※「根固めのみ」）は（礎石が）無い。

◇委員

「根固めのみ」というのは、（礎石が）無いのではなく、残っていないのではないのか。

◆事務局

上の礎石はもう飛んでいる。

◇委員

建物配置を復元するのであれば、礎石の同時代性というのが前提となる。一つの建物だと構造的な共通性があるだろうから、やはり層位的に同時性を確認した上で、礎石配置を絞り込んで、その上で建物復元というような段取りを踏まなければいけない。もう少し情報の整理をしてから議論したほうがよい。

◇委員

「根固めのみ」が8個あるが、全部同じなのか。同じならそれもまとめて、石があるなしに比べて配置を考えることは可能か。

◇委員

暫定的ではあるが、今の説明と第1層・第2層の関係からすると、IV・V・VI・VIIは白色粘土より明らかに新しいので、少なくとも白色粘土を据えてから礎石を据えているという解釈でよい。

（今後、）IV・V・VI・VIIの礎石の上面の標高を押さえてほしい。多分揃ってくる。先ほど指摘のあったとおり、恐らく表面に近いところだけが第2層と捉えられているが、資料2の最初にあるように、この土地が鍋島主水家屋敷地から始まって、幕末に精煉方、精煉社、精煉合資会社と変遷したことは文献調査などで押さえられている。

平成21年度の調査で、I・II・IIIの礎石の根固めから、精煉方より100年前、18世紀半ば頃の磁器が出ている。当然、それは主水家屋敷のものだと思うが、I・IIの一部も第2層を切り込んで礎石の根固めがされているので、明らかに時期差がある。埋まっている礎石はそれより古いIとIII。IIの一部では、礎石が据えられた時期が18世紀半ば頃を上限とすることは押さえられているので、その辺りの整理をしていくと、恐らくIV・V・VI・VIIとII・IIIが引き算できて、残ったものが幕末となる。

それと、平成21年度の調査で、精煉合資会社の図面と「精煉方略図」とを合わせて見て、田中や中村の居宅がそのまま明治27年まで使われていた。建物がいつのものかはわからないが、調査成果からすると、礎石は原位置を動かさずに再利用している可能性が高いので、それも引き算の材料になる。これは重層遺跡なので、求める年代の遺構以外のものを引き算しないと姿が見えてこない。図面では一緒になっているが、層序や礎石の上面の標高、柱を立てるための礎石、束柱を置くための礎石なども、色違いで整理をしていくとよい。

調査の目的から言うと、第1層から切り込んでいるような礎石は、幕末の精煉方を対象にする以上は考えなくてよいことになる。来年度の調査では、精煉方より古い時代、鍋島主水家屋敷の時の層ではどうなっているかが、大きなポイントになる。

◆事務局

ありがとうございます。

【協議事項】

②令和5年度の発掘調査について

※事務局より説明。(以下、質疑応答)

◇委員

昨年掘ったところと今度掘る予定のところの土地は、平面でつながっているのか。記憶では、その辺りには木が生えていたようだが。

◆事務局

植え込みなど、除去できる分については除去して、なるべく調査範囲を広げていきたい。

◇委員

赤い印は、宅地と予想されるところか。

◆事務局

これは、前回、平成21年度の調査範囲である。それに調査をかぶせていく形になる。

◇委員

青い範囲の中の赤い印は平成21年度の調査地である。

◇委員

家屋ではないということか。大きな松の木があったような気がするが。

◆事務局

それは、調査範囲から外れているところになる。

◇委員

それならよい。

◇委員

今年度の調査の現状はどうなっているのか。埋め戻しているのか。

◆事務局

まだシートをかけている状態である。来月(※3月)、養生のために土のうを入れて埋め戻す予定である。シートをかけているが、表面が傷んできたり、シートが風にあおられて小石が動き出したりしているので、それについても養生をしなければいけない。

◇委員

今年度の調査で、礎石の下に玉石がある状況は、同じ面で10個近くある。玉石の密度や厚さもしっかり確認していただきたい。

◆事務局

はい。

◇委員

玉石の上に礎石があるが、玉石の下の土の状態はどうかを見ていただきたい。

◆事務局

完全に埋め戻すのではなく、例えば土のうで養生して、調査のときに土のうを外せばまた玉石が見えるような状況にして、そこにサブトレンチを入れるような方向で考えたい。

◇委員

同じ層で同じ地盤にもかかわらず玉石の量が違うのは、上の構造物の荷重によって影響を受けているか、または、上の構造物の荷重が同じであっても、下の地盤によって玉石の量が違ってき

ているかにも影響するので、上の建物のレイアウトがわかったとしても、遺構全体の理解にはならない。既に開いているところは、玉石を見てほしいし、来年度、東側の調査をやる際にもそういう視点で見ていただきたい。開けてから時間が経つと、玉石の下の土の状態も変わってくるので、開けたらできるだけ早くやってほしい。

◆事務局

わかりました。その辺りは調査担当者と話し合いながら、一部下の状況の土を抜いてみるなど、確認をしていきたい。

◇委員

そのときに、どういう調査をしたらいいのか、どういう視点でその手順をやればいいのかについては、いくらでもご相談にのるつもりである。

◆事務局

ありがとうございます。

◇委員

来年度は東側の調査をするということだが、だんだん引き算の材料が増えてきたのではないかなと思う。重要産業遺跡としての精煉方が調査の目標なので、そこを見失わないようにしてほしい。平成21年度からの調査、「精煉方図略図」、精煉合資社の図面があって、層序的なものは発掘調査で引き算できると思うが、今後、調査を進めていくと判断材料が増えてくるので、来年度の細かな実施計画を立てる際に、幕末の精煉方の本質的な価値を明らかにする中期的な調査計画も立てたほうがよい。

◆事務局

はい。その辺りは課内で検討したい。ありがとうございました。

◇委員

今回の発掘調査で礎石や構造、層位関係について、ある程度が目途が立ったが、来年度の調査をする際には、手掛かりが随分増えていると思う。今回の調査成果を来年度に活かすためにも、その辺りの層位や構造の確認、幕末の精煉方にどういう建物が建っていたのかを抽出できるよう目指す調査をしていただきたい。

ところで、前回の委員会で話題に出たが、東側の工場部分との層位関係については、何か考えや計画はあるのか。

◆事務局

来年度の調査を行って層位的な整理をし、小さなトレンチでもよいので広げていきたいと考えている。先ほど言われたような、中期的な計画も立てるような形で進めたい。

◇会長

精煉方以前と精煉方以後の遺構の土層が交錯しているとても面倒な遺跡だと思うが、やはりメインのテーマである幕末の精煉方の全体図が文化財としてどういう形で残っているかという確認が、今回の調査の一つの大きな目的だと思う。東側と西側の時期的な関係を遺構や層として押さえるのは重要である。ぜひ、その辺りも含めて今後の調査計画を進めていただきたい。

この他、委員の方からご意見があればお願いしたい。

◇委員

これまで文献調査で集まっているデータを委員に提供していただきたい。

◆事務局

わかりました。

◇会長

ぜひお願いしたい。

◇委員

今日の資料の中で、例えば資料2についてだが、できれば礎石の種類によって色を変えていただくとうわかりやすい。

◇委員

配列を考えるときには、層の見える化が大事だ。

◇委員

重層遺跡というのは非常にわかりにくいし、図面や写真を見せられてもよく理解できない部分もある。層序と遺構の新旧が一目でわかるよう略図化し、他の分野の委員の先生方にもわかりやすい資料を用意していただきたい。

◆事務局

今回はもう少しわかりやすい資料作成を心掛けたい。

◇会長

産業遺産そのものが非常に学際的な検討を必要とする事案だと思う。掘ればわかることは実は非常に少ない。ぜひ共有できるような情報の提供を心掛けていただきたい。

以上